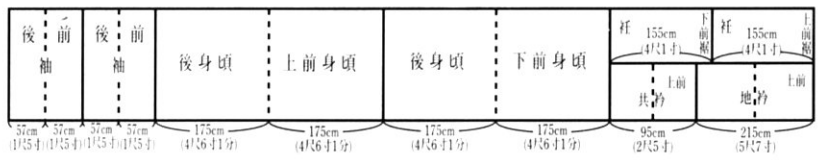
平成24年度和裁士技能検定（２級）学科試験解答

実施日：平成26年３月9日
所用時間：60分

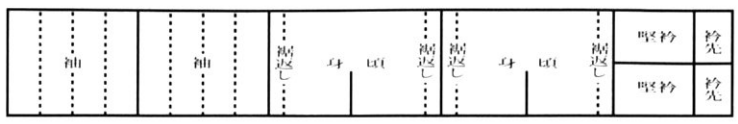
(1) 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよくわかるように記入して裁断図を書きなさい。(裁ち切りは実線、折り山等は点線で記入)

(配点各問6点)

①並幅物12m40cm（3丈2尺6寸5分）の反物で本裁女物長着を下記寸法で追い裁ちにしたい。裁断図と各部の寸法と名称を記入しなさい。
身丈背より出来上がり165cm（4尺3寸5分）・袖丈出来上がり53cm（1尺4寸）
繰越3cm（8分）・裾下（衿下）出来上がり81．5cm（2尺1寸5分）・他は標準寸法とする。
(注) 袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衽裾などの位置を明記すること。

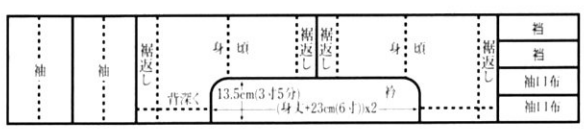


②並幅物12m（3丈1尺7寸）で本裁女物、袖無双、別衿長襦袢を作りたい。裁断図を記入しなさい。

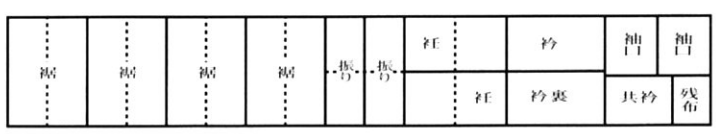


③並幅物4m（1丈0尺5寸）で一つ身長着を作りたい。裁断図を記入しなさい。

④並幅物6m(1丈5尺9寸）で女物羽織を作りたい。裁断図を記入しなさい。ただし、裄寸法は62.5cm（1尺6寸5分）とする。



⑤並幅物11.8m（3丈1尺2寸）で留袖用比翼を作りたい。裁断図を記入しなさい。ただし、袖は口、振りとし、衿裏共布とする。



(2) 次の各問の文章が正しい場合には○印、誤っている場合には×印を各問の所定の位置に付けなさい。

(配点各問２点)

(○) 1. 一越ちりめんとは緯糸に左撚りと右撚りを交互に織り込んだもので、二本おきに織り込んだものを二越ちりめんという。

(○) 2. ポリエステル系合成繊維のポリエステルは帯電性があり、汚れがつきやすい。

(×) 3. ①絞り浴衣、②上布、③御召し、④絣、は先染めものである。

(×) 4. 絹織物の中で綾織物には、黄八丈、お召し、紬、パレスなどがある。

(×) 5. 色の三原色は赤、緑、紫で、光の三原色は赤、黄、青である。

(○) 6. 覗き紋とは丸い輪（陰）の下部または上部に紋の一部を覗かせた紋である。

(×) 7. 総絞りの裏打ちは、共糸で裏打ちしなければならない。

(×) 8. 石持ちに陽紋は染められるが、陰紋は染められない。

(○) 9. 越後上布、能登上布は織り上げてから雪に晒したものが高級である。

(×) 10. 有松絞り、博多絞りは主として絹布に絞られる。

(×) 11. 経帷子（きょうかたびら）は僧侶が読経のときに袈裟の下に着る白衣である。

(×) 12. 長襦袢の後身幅、前身幅は、きものの下に着るので、きもののそれより狭くするのがよい。

(○) 13. 横段柄を肥満体の人に仕立てる場合は、柄を並べないほうがよい。

(○) 14. 男物着丈の標準寸法は、身長より25 ～ 27cm短くする。

(×) 15. 男物羽織の抱き紋の位置は、反物の巾の中央にある。

(○) 16. 柄裁ちをする場合、長着は上前の前身頃および胸にポイントを置き、羽織は後身頃にポイントを置く。

(○) 17. 婦人用羽織の衿用布は、羽織丈に約27cmを加えたものを2倍とればできる。

(○) 18. 羽織を追い裁ちに裁った場合、後身頃の柄が上を向くようにするのがよい。

(×) 19. 被布衿コートは、襠を付けて仕立てるのが普通である。

(○) 20. 二部式雨コートの下着丈は、腰骨の上8cmから裾はくるぶしが隠れるくらいが適当である。

(×) 21. 現在着用されている女袴の起源は、江戸時代末期である。

(×) 22. 女物無地一つ紋の長着は、紋付絵羽織を着なければ略礼装にはならない。

(×) 23. 打掛はかいどりともいい、その模様は飛柄総模様である。

(○) 24. 帷子とは、古くから裏のない単衣物の総称で、今日では夏の麻のきものをいう。

(×) 25. 仕舞袴の前ひだと女袴の前ひだの数は、ともに3つである。

(×) 26. 帯もきものと同様に、正式礼装用として格式が高いのは、織りの帯より染めの帯である。

(○) 27. 1反の用布で垂裏別布があれば、標準寸法の人の羽織と名古屋帯ができる。

(×) 28. 都衿は、前落し布を用い、型紙を使用しない。

(○) 29. 被布は室内着としても用いるが、被布衿コートは室内では脱ぐのが礼儀である。

(○) 30. 四つ身裁ち羽織の衿は、前身頃を輪にして前身頃よりとる。

(×) 31. 男児五歳の祝着の袖は振りを付けて、丸味を付ける。

(×) 32. 子負い袢天には必ず衽が付く。

(×) 33. 袴の紐のつぎ合わせなどに用いられる補綴の方法は、織り込みつぎである。

(×) 34. へらは骨材のもので、大きめのものがよく、先は出来るだけ薄くしたもののほうがはっきり標がついてよい。

(○) 35. 照度を表すルクスは、その数字が大きくなるほど、明るくなる。